

外科学 B

責任者名：米原 啓之

学期：前期

対象学年：6 年

授業形式等：講義

◆担当教員

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

櫻井 淳(隣接医学 兼任講師)

寺本 賢一(隣接医学 兼任講師)

廣瀬 倫也(歯科麻酔学・薬理学 兼任講師)

渡邊 和宏(隣接医学 兼任講師)

石井 雄介(隣接医学 兼任講師)

日野浦 礼(隣接医学 兼任講師)

岡 俊一(歯科麻酔学 教授)

外木 守雄(口腔外科学Ⅰ 教授)

清水 治(口腔外科学Ⅱ 准教授)

◆一般目標 (GIO)

歯科臨床を系統的に行うために、必要な外科的知識を理解し、全身的視野に立って外科学の基礎的知識および概念を身に付ける。

◆到達目標 (SBO s)

歯科臨床を行うにあたって必要な外科的知識を理解し、全身的視野に立って歯科治療を行うことができる。

◆評価方法

第 1 回～第 7 回終了後、平常試験を行う。定期試験は、第 8 回以降の内容から出題し、両方の試験を総合して各 50%により評価する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
米原 啓之	月曜日～金曜日 17:00～18:00 口腔外科学第Ⅱ講座教授室	yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

授業は教科書、PC、黒板を用いて行う。平常試験後にはフィードバックを行う。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	隣接医学Ⅱ (PDF ファイル配付)	日本大学歯学部編	日本大学歯学部	令和 4 年

参考書	指定しない。			

◆DP・CP

DP 4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP 5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

DP 6

コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において、他者との円滑な意思の疎通を行い、互いに価値観を共有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

DP 7

コンピテンス：リーダーシップ・協働力

コンピテンシー：患者を中心としたチーム医療において、責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

CP 3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP 4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP 7

歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。

◆準備学習時間

各々の授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

隣接医学 I, III

口腔外科手術時の患者管理

口腔診断学・有病者歯科学

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.12	5	【対面】	・心臓血管外科における各疾患とそ	石井 雄介	E-6 医師と連

				1. 術前・術後管理 1	の危険因子を説明できる。	米原 啓之	携するために必要な医学的知識
2		5.12	6	【対面】 2. 術前・術後管理 2	・合併症を学び、その対策を理解し、遠隔期の再発予防法について説明できる。	石井 雄介 米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
3		5.26	5	【対面】 3. 心臓外科	・病態と診断について学び、外科的治療法を理解できる。	日野浦 礼 米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
4		5.26	6	【対面】 4. 救命救急 1	・循環調節系を説明できる。 ・ショックの5型を説明できる。 ・ショックの初期対応を説明できる。	渡邊 和宏 米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
5		6.2	5	【対面】 5. 感染予防、消毒法、滅菌法、外科的感染症	・感染予防、消毒、滅菌法の原則を説明できる。 ・感染症の種類と同定法を学び抗生剤（MRSA、日和見感染）の用方を説明できる。	寺本 賢一	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
6		6.2	6	【対面】 6. 外科的腫瘍総論・腫瘍治療法	・外科腫瘍総論について学び説明できる。 ・腫瘍の放射線療法、化学療法および免疫療法について学び説明できる。	寺本 賢一	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
7		6.9	5	【対面】 7. 歯科麻酔	・歯科治療中に起こりうる麻酔偶発症について学び、その病態を説明できる。	廣瀬 倫也 米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
		6.9	6	【対面】 平常試験		米原 啓之	
8		6.16	5	【対面】 8. 救命救急 2	・救急蘇生法について学び、基本を説明できる。	櫻井 淳	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

9	6.16	6	【対面】 9. 救命救急3	・救急蘇生法について学び、基本を説明できる。	櫻井 淳	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
10	6.23	5	【対面】 10. 外来手術管理上問題となる疾患 口腔外科学第4版 学建書院 (pp.332-334)	近年の口腔外科手術は、危険度の高い患者や広範囲で侵襲の大きい手術がかなり行われている。基礎疾患を有する患者、あるいは加齢によって手術時に注意を必要とする患者の対応を、特に外科手術に関して説明できる。	清水 治	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
11	6.29	8	【対面】 11. 消化器 4) 肝臓・胆嚢・膵臓 他	・高頻度に見られる肝胆膵疾患の症候と診断の基礎を説明できる。	寺本 賢一	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
12	6.30	5	【対面】 12. 歯科治療時に必要な全身X線像 読影	・胸部・腹部単純X線像において認められる臓器を説明できる。 ・各内科疾患の特徴的X線像を説明できる。 ・頭部外傷で見られる特徴的なCT像を説明できる。 ・脳血管疾患において認められるCT・MRI像を説明できる。	米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
13	6.30	6	【対面】 13. 薬剤服用患者の管理	・うつ病などの精神疾患患者の常用薬・問診事項・歯科治療時の注意点と対応について説明できる。 ・ステロイド離脱症状について説明できる。 ・ステロイドカバーが必要な疾患について説明できる。 ・抗血栓薬服用患者の歯科治療時の注意点について説明できる。	岡 俊一	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
14	7.7	5	【対面】 14. 睡眠と歯科治療 1) 睡眠障害と全身におよぼす影響	・睡眠の意義について説明できる。 ・睡眠障害に種類とその性状について説明できる。 ・睡眠呼吸障害が全身に及ぼす影響を説明できる。	外木 守雄	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

					<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠障害の検査法について説明できる。 ・睡眠障害の治療方法について説明できる。 		
15		7.7	6	<p>【対面】</p> <p>15. 睡眠と歯科治療</p> <p>2) 閉塞性睡眠時無呼吸症に対する歯科の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・閉塞性睡眠時無呼吸が全身に及ぼす影響を説明できる。 ・閉塞性睡眠時無呼吸の検査方法について説明できる。 ・治療の流れ，医科歯科連携について説明できる。 ・口腔内装置，顎顔面外科療法について説明できる。 	外木 守雄	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

